

平成29年度

第27回群馬県歯科保健大会

食べること、健康であること、美しくあること、
全ては人々の幸せのために！

日 時 平成29年11月29日(水)
会 場 群 馬 会 館

主 催

群馬県・群馬県教育委員会
群馬県歯科医師会・群馬県学校歯科医会

表彰式典

13:00~14:15

(司会)	群馬県歯科医師会専務理事 森 島 愛一郎
1 開会の辞	群馬県歯科医師会副会長 小川 卓
1 挨拶	群馬県知事 大澤 正明
	群馬県歯科医師会会长 村山 利之
1 群馬県歯科保健賞 推薦・選考経過報告	群馬県歯科医師会常務理事 小野 好一

1 表彰式	(敬称略)
(1) 歯科保健賞	
学校歯科保健	小林 知代
障害者歯科保健	稻田 穂
産業歯科保健	三菱電機株式会社群馬製作所
一生涯を通じた歯科保健	特定非営利活動法人群馬県歯科衛生士会

(2) 歯科保健奨励賞	
一生涯を通じた歯科保健	星野 弘二
一生涯を通じた歯科保健	大島 智子
一生涯を通じた歯科保健	大久保 理奈
学校歯科保健	桐生市立黒保根小学校
学校歯科保健	東吾妻町立東小学校
学校歯科保健	藤岡市立鬼石北小学校
学校歯科保健	藤岡市立鬼石小学校
学校歯科保健	藤岡市立鬼石中学校

(3) 歯科保健特別賞	
平成29年度親と子のよい歯のコンクール中央審査	
優秀者 藤井美穂	
藤井柚那	
(4) 平成29年度 群馬県よい歯と口の学校・学級表彰	
(5) 平成29年度 群馬県歯と口の健康に関する研究・活動事例等コンクール表彰	
(6) 平成29年度 歯・口の健康啓発標語コンクール最優秀賞表彰伝達	
高崎市立東部小学校 4年生 清水桃果	
(7) 第56回全日本学校歯科保健優良校表彰伝達	
日本歯科医師会会長賞	前橋市立天川小学校
奨励賞	高崎市立倉渕小学校
奨励賞	桐生市立清流中学校
奨励賞	群馬県立吾妻特別支援学校

1 祝辞	群馬県医師会会長 須藤英仁様
	群馬県薬剤師会会長 武智洋一郎様
1 来賓並びに審査委員の紹介	
1 受賞者挨拶	小林 知代様
1 閉会の辞	群馬県歯科医師会副会長 中野玲子

自分の歯・口の健康に关心を持ち、その大切さに気づき、主体的に改善しようと実践する児童・生徒の育成

～元気いっぱい鬼石っ子！自分の歯は自分で守ろう～

(藤岡市鬼石地区) 群馬県藤岡市立鬼石北小学校

群馬県藤岡市立鬼石小学校

群馬県藤岡市立鬼石中学校

1 研究主題

自分の歯・口の健康に关心を持ち、その大切さに気づき、主体的に改善しようと実践する児童・生徒の育成

2 実践した主な活動

(1) 専門家との連携

・歯科検診どきどき予想

歯科検診前に、う歯の有無や歯茎の様子についてワークシートで予想するようにした。検診時に予想の答えあわせをし、歯科衛生士が児童生徒の歯と口の状態に合わせて個別指導を行った。自分の歯と口の状態を捉え、専門的な指導を受けることで、歯みがきの改善意欲が向上した。

歯科検診 どきどき予想

歯科検診 どきどき予想		
	1歳	2歳
予想してみました できるか？	できる できない	歯科検診を行って 結果はどうだったかな？
「もしも」あるか？	ある ない	予測した通りが…
予測通りにかかれていた時はあかなか？	ある ない	ある・どちらかともいえ ない
予想の内容は、どうでした？	きれい ちょっと悪い	きれい ちょっと悪い
今度は、何がおき？	元気 ちょっと不調	元気 不調
*歯医者さんからでせバイス		
*質_想		



(2) 地域・家庭との連携

・鬼石地区3校合同拡大学校保健委員会

国立モンゴル医科大学 岡崎好秀客員教授を招き、講演「親子で実践 かんで磨いて 生き生き歯ッピー～食育の基本は歯・口の健康づくりから～」を実施していただいた。鬼石小・鬼石北小学校の6年生や鬼石中学校全校生徒、保護者、市内の養護教諭など地域の関係者が、噛むことの大切さを中心に様々な面から歯と口の健康について考えた。クイズや動画を交えたり、友人と意見交換をしたりしながら、楽しく歯と口の大切さを見直す様子が見られた。



・親子カラーテスト

冬休みに、児童・生徒と保護者分の染め出し錠とワークシートを配布し、家庭で歯みがきの仕方を見直す機会をもうけた。ワークシートには、児童と保護者の歯の図が並んでおり、互いに比較できたり、みがき残しを ABCD の自己評価できたりする。保護者も正しい歯みがきについて再確認でき、子どもと話し合うきっかけとなった。



・学校だより、保健だより、学校 HP

歯科検診の結果や歯の出前講座、う歯治療率の経過などを定期的に紹介した。また、保護者に歯科指導の様子が伝わりやすいように、歯の出前講座や学級での歯みがきの様子を写真と合わせて掲載した。児童生徒と家庭に継続して、情報発信することで歯と口の健康づくりに対する知識が深まり、実践意欲の向上が期待できた。

・歯の出前講座

藤岡市子ども課から歯科衛生士と保健師が来校し、各学級で歯科指導を行った。児童生徒の発達段階に合わせ、6歳臼歯の大切さや歯周病、おやつの摂り方などの歯科講話と染め出しによる歯みがき指導を実施した。毎年、実施することで児童生徒の意欲にもつながり、その後の歯みがきでも歯科衛生士から教わったみがき方を自主的に実践する姿が見られた。



(3) 学校での実践

・咀嚼力判定ガム

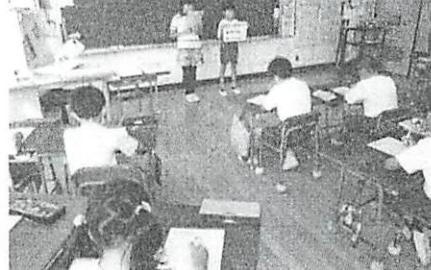
学校保健委員会や保健集会、文化祭で咀嚼力判定ガムを用いて、咀嚼の大切さを学んだ。学校歯科医に協力してもらい、鬼石地区児童生徒分のガムを用意し、色調変化を観察しながら咀嚼力を把握した。また、よく噛むことが唾液の分泌につながり、唾液の自浄・中和作用が、う歯予防につながる点と咀嚼の8大効用「ひみこののはい一ぜ」について紹介した。



・生活習慣チェック

歯と口に関する項目や基本的な生活について、3校で話し合い、共通の項目を決め、年間10回、自分で評価した。頑張った項目や改善すべき項目を児童生徒自身が捉えるようにした。チェック用紙の裏面には各学期の健康目標を記入した。

また、保健委員が集計を行い、各学級の傾向を発表し、改善できるよう、呼びかけた。1月には年間を通しての各学級の変化から成果と課題を発表し、年度末のまとめにつなげた。



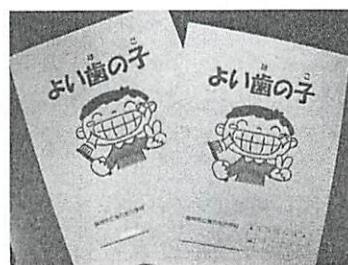
・歯ブラシチェック

朝の会や給食後の歯みがき時に保健委員による歯ブラシチェックを実施した。「歯ブラシを背側から見て、毛先が広がっていないか」「ブラシが指2本分の大きさに近いか」という項目でチェックし、正しい歯みがきの仕方だけでなく、整った歯ブラシを使うことも大切であることを呼びかけた。各学級の結果を放送で紹介することで、全校での意識を高めることができた。



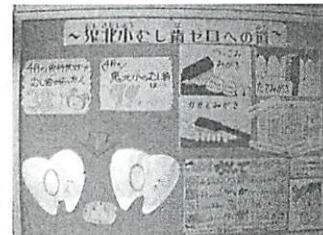
・歯科ファイルの作成

歯みがきカレンダーや親子カラーテストなど歯と口に関する取り組みを専用のファイルに一人ひとりまとめていることで、取り組みを振り返りやすく、1日3回の歯みがき習慣や正しいみがき方についての改善、実践意欲が向上した。



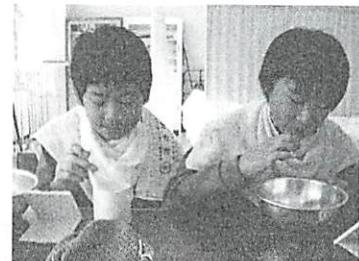
・歯科保健に関する掲示物の作成

歯科検診の結果や治療率の推移、う歯予防を呼びかけたものを掲示した。また、よい歯のコンクールで受賞したポスターや標語も掲示し、様々な方向から歯と口の健康について啓発できた。治療率の比較や推移を掲示すると、児童生徒の受診意欲が高まり、保護者に受診を頼む様子もみられた。



・養護教諭による個別歯科指導

歯科検診でう歯が多かったり、歯肉の状態が良好でなかつたりした児童生徒を中心に、昼休み等を使って個別歯科指導を行った。正しい歯みがきの仕方や歯肉炎など、一人ひとりの歯と口の状態に合わせて指導計画を立て、実施した。また、学級担任を通して指導を呼びかけることで、個別指導後も継続して学級で様子を見てもらうなど、担任との連携を深めることができた。



3 成果と課題

- ・学校歯科医と協力し、鬼石地区三校で共通に取り組む「歯科検診どきどき予想」を活用し、歯科検診をより充実させ、児童生徒の歯・口の健康づくりに対する関心を高められた。歯科検診前に結果を予想し、結果と比べ、歯科衛生士から個別指導を受けたことで、これから歯みがきの仕方に気をつけたいという児童生徒が多く見られた。
- ・歯科衛生士によるブラッシング指導や養護教諭による個別歯科指導を行うことにより、歯みがきの仕方や歯肉炎の予防について正しい知識が身に付き、実践できるようになってきた。
- ・三校合同拡大学校保健委員会の実施後の感想で、「噛むことの大切さ」や「だ液の働き」などが分かり、これからしっかりと噛んで食べるようにならうといふ児童生徒が多くみられた。
- ・親子でカラーテストを継続して実施することで、保護者も正しい歯みがきについて再確認できた。また、家庭で、子どもに対しても正しく歯みがきするよう話し合いの場が持てた。
- ・学校歯科医と協力し、鬼石地区三校で共通に取り組む「歯科検診どきどき予想」を活用し、歯科検診をより充実させ、児童生徒の歯・口の健康づくりに対する関心を高められたので、今後も改善しながら継続していく。「歯科検診どきどき予想」の感想には多くの児童生徒が「アドバイスしていただいたことをこれからも守って、しっかりと歯みがきをしていきたい。」と書いているので、その気持ちを継続させられるよう、児童生徒保健委員等の活動をより充実させていく。
- ・小学校と中学校の連携をより密にするとともに、小学校入学前の段階である幼稚園や保育園と協力し、歯・口の健康づくりに関する情報交換や講演会への参加を促していく。
- ・地域との連携として、地域人材を有効活用する。
- ・家庭との連携を強めるために、学校通信、ホームページ、保健だより、学級通信等での情報発信をより多くし、親子でカラーテストも継続していく。
- ・生活習慣チェックを継続し、学年やクラスの課題だけでなく、個々の課題にも注目し、個別指導を行い、課題解決のために何が必要か、一人一人が考えられるようにしていく。